

令和5年度自己評価

1. 「令和5年度の目標（内容）」について

1. 一人一人に寄り添う保育

- ・子どもの発達理解と小グループ保育の定着
- ・「こんな保育を展開したい」という思いの共有と適切な保育の取組
- ・保護者に寄り添った情報共有と発信

- ・保育者一人一人の意見を聞き、思いを実現できるよう支えて頂いたと感じている。
- ・各学年でさまざまな保育の取り組みがあり、保育者が保育を楽しむことが出来たと感じた。
- ・保育者同士でやってみたい保育や子どもたちと楽しみたい保育のイメージを出し合い共有できた。
- ・学年目標を見直しさらに目指して保育を行うことができた。
- ・手探りながらも職員間で話し合い、少しずつ前に進めて行く様子が協力しあっていた。
- ・未満児中心に小グループ保育を行っている。職員への認知やどう保育を行っているのかという理解度に差があると感じる。部署は違うものの、ふじなでしこの一員としてもっと一人一人が理解すべきである。
- ・昨年よりも、小グループ保育の取り組み方が明確になり進めやすくなった。子どもたちの発達に合わせた保育展開は課題点もあるが、担任間で思いを共有しながら取り組めた。
- ・一人一人の子どもの姿を職員間で共通理解し、スムーズな小グループ保育への移行へと繋がった。
- ・子どもの発達段階に合わせて過ごせた環境は、年齢が小さくなるほど良かったと感じる。
- ・月齢やその子の生活リズムに合わせて過ごせていると思う。
- ・一人一人にゆとりある接し方が難しいことがある。急ぎで他のことを行わなければならないことがあった場合に急がせてしまうことがある。個々の気持ちに寄り添いつつ周りを見て行動することも伝えていきたい。
- ・もう少し活動内容や日々の過ごし方を保護者にも発信していったらいいと思う。
- ・クラスでの活動をドキュメンテーションやInstagramは子どもたちの日々の活動や保育者の願いなどを伝えることが出来たと感じる。
- ・Instagramやおがーるシステムにて定期的に様子を伝えることができた。
- ・アプリやシステムを通して、情報の提供がしやすくなったと感じた。
- ・子ども一人一人の家庭環境や性格成長過程に合わせた援助・保護者支援ができた。
- ・子どもの姿に不安を抱えている保護者も多かったため、丁寧に伝えた。
- ・保育室の数は、他学年やプレスクールなどとの兼ね合いは難しかった。

2.働きやすい環境づくり

- ・誰もが安心して発信や行動ができる職場づくり
- ・職員間のコミュニケーションの円滑化
- ・職員一人一人が活かされる職場を目指す

- ・職員間の風通しがよくなったように感じている。
- ・個性を生かせる職員が増えてきたように思う。
- ・仲間を思いやり、助け合って働いていけるように心がけた。
- ・明るく元気な挨拶を心がけ、仕事内容を伝える際もゆっくり丁寧に伝えるようにした。
- ・協調性を意識し、他の職員の先生の話しに耳を傾けるようにした。
- ・報告連絡相談を担任間でしていったことで保育の内容などで同じ目的を持って活動できた。
- ・職員間でのコミュニケーションを図るため、積極的に書類のことを聞くことができた。

- ・コミュニケーションの円滑化も率先して取り組んでいるということもあるが、様々な先生と言葉を交わすことができてよかった。
- ・一人の意見だけでなく、皆でコミュニケーションをとりながら進めることが出来た。
- ・一人一人の話を聞き、仕事が円滑に行えるよう努力した。
- ・同じ学年や部署の職員で情報共有や共通理解を大切にした。
- ・日頃から職員間でのコミュニケーションを図り、各々の得意、不得意を把握しておくとうい。
- ・お互い気持ち良い挨拶を交わし合っていると声が多く聞こえる。以前に比べ機嫌を伺い顔色をみて話しかけなくてはいけない環境がなくなった。
- ・職員間のコミュニケーションは、限られた職員間でのみとられていると思う。
- ・保育やそれ以外のことなどを上司や後輩になんでも話せる環境があった。職員間で話すことで刺激を受けたり、励まされたりするとことが多かった。
- ・意見や思いをうまく言葉にして伝えることが難しい場面があった。
- ・若手の職員だけでなく、誰もが、やりがいや保育の楽しさを味わうことができた。
- ・ピアノや SNS など職員一人一人の得意分野での活躍が見られたと思う。
- ・発信や行動について、振り返ると不十分だったように感じる。
- ・年度初めは特に先の見通しがもてないことがあった。
- ・食物アレルギーの事故があった一学期は、不安を抱え緊張しながら働いている職員が多くいたように感じた。
- ・休憩時間などの余裕のある休み時間に雑談をして給食室の先生方と交流を深めた。
- ・以前も取り組んでいたノンコンタクトタイムは、とても大事なこととして全体で継続できるようにしてほしい。
- ・休憩時間を設けて頂いたことで、職員とのコミュニケーションを円滑にとることができた。

3. おがーるシステムの活用と業務削減

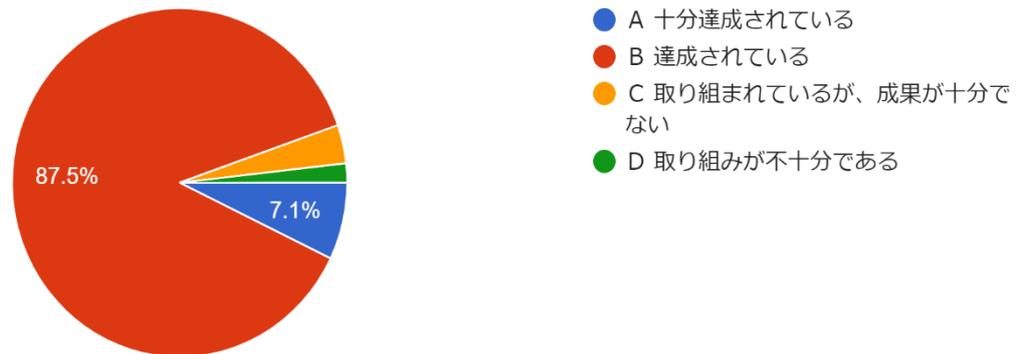
- ・おがーるシステムの操作方法の取得（誰もが操作できるように）
 - ・システムによる業務の効率化を目指し、意見交換や共通理解をする
 - ・SDGsを意識した取り組みにつなげる（経費節約）
- ・おがーるシステム導入により、業務削減に繋がった部分は多くあったと思う。
 - ・システム内で連絡事項のアナウンスができ、便りなども閲覧が可能になった。
 - ・園だよりやクラスだよりなど配信できることで、経費の節約などに繋がっている。
 - ・日誌や書類等の業務の効率化ができていると感じるが、操作については一部の職員だけが詳しく、全体周知が難しいことも課題である。
 - ・保育日誌等の確認をシステム上で行うことでペーパーレス化に繋がっている。
 - ・アンケートの機能やおたより帳などを有効に使っておがーるシステムを身近にしていきたい。
 - ・ペーパーレスでのお知らせが増えた事は経費節約になったと思う。
 - ・欠席連絡等の朝の電話対応が減り、時間を有効に使うことができる。
 - ・欠席する際、保護者がおがーるシステムで連絡しない家庭もあるので、個別の言葉かけが必要だと感じる。
 - ・生活表の子どもの登園時間など記入漏れがあってもすぐに打刻を確認できる。
 - ・システムの使いにくさがあり、その都度改善してもらった。改善された内容についてはしっかりとやり方を把握していきたい。
 - ・登降園の確認や早朝保育の人数確認は結局紙に書いて再確認している。
 - ・画用紙などなるべく無駄のないように使うようにしたり、廃材を使ったりしていた。
 - ・経費削減は、職員全体の意識がまだ低いように感じる。備品の管理も含め、意識向上を目指したい。
 - ・業務に取り組む前に必ず検討することを意識することや共有をもっとしていきたい。
 - ・タブレット支給により、業務がはかどった。

- ・資源の有効活用については子どもたちにも分かりやすい表現で伝え、一緒に取り組んでいける機会を増やす。
- ・ダンボールや牛乳パックなどで保育教材を作り、SDGsを意識していった。
- ・不明な箇所はその都度聞き分からないことをそのままにすることはないよう努力した。

2, 園の取り組みについての評価（自己反省も踏まえて） 回答…56名

1. 教育・保育理念 建学の精神／教育・保育方針／諸規則の理解と実践

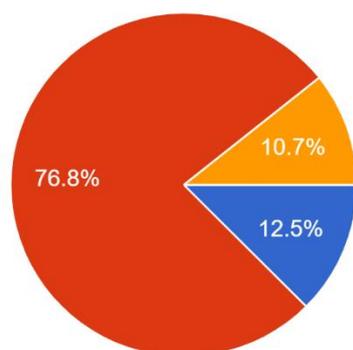
56件の回答



- ・建学の精神を再確認し、今も昔も変わらず、目の前の子どもたちに愛情をもって接することができた。
- ・園の方針や理念を大切にしながら、ぬくもりの中にもけじめのある保育を行うよう心がけた。
- ・日頃から、室内掲示してあるものを見て意識するように心掛けている。
- ・保育方針を見つめ直し諸規則を守りながら園のために少しは貢献できたと思う。
- ・教育・保育理念は実践されてはいるものの、職員間の定着や意識が常にあるかというのは疑問である。
- ・職員間でコミュニケーションを図りながら教育・保育理念等の理解を深めることができた。
- ・振り返りをその都度行うことで意識することにつながり、保育に活かすことができていると感じる。時代や社会情勢の変化に伴って変わってきていることも多くあるが、大切にしたい思いや、やり方を変えても変わらない思いなどはこれからも大切に意識していきたい。
- ・教育・保育理念の振り返りを年度内にも取り入れ、職員が同じ思いをもって保育と向き合えるようにしていけるようになりたい。
- ・保護者や対外的に広く伝えてふじなでしここども園の思いを知ってもらえたら良い。
- ・保育に携わることがないためあまり意識せず過ごした。

2-1. 子どもの発達・援助 保育の在り方／児童への対応

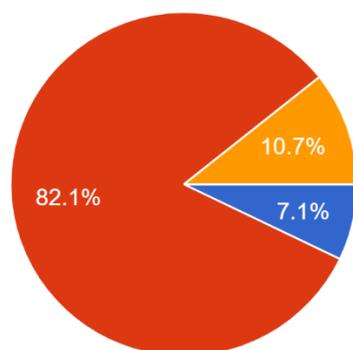
56 件の回答



- A 十分達成されている
- B 達成されている
- C 取り組まれているが、成果が十分でない
- D 取り組みが不十分である

2-2. 子どもの発達・援助 危機管理／保健衛生／安全教育に対する取り組み

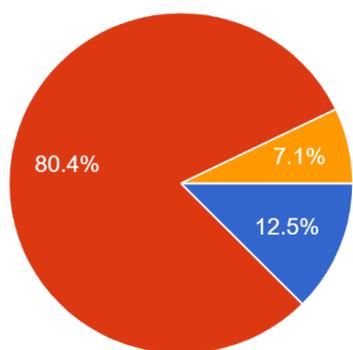
56 件の回答



- A 十分達成されている
- B 達成されている
- C 取り組まれているが、成果が十分でない
- D 取り組みが不十分である

2-3. 子どもの発達・援助 様々な生活リズムや年齢の児童への配慮

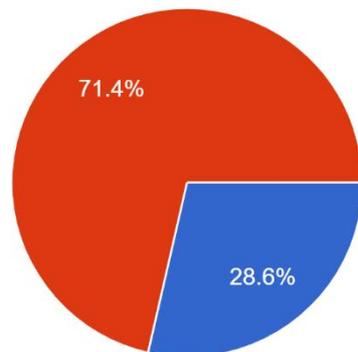
56 件の回答



- A 十分達成されている
- B 達成されている
- C 取り組まれているが、成果が十分でない
- D 取り組みが不十分である

2-4. 子どもの発達・援助 行事への取り組み

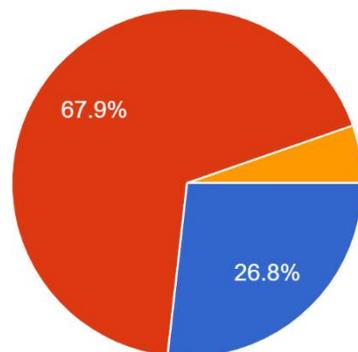
56件の回答



- A 十分達成されている
- B 達成されている
- C 取り組まれているが、成果が十分でない
- D 取り組みが不十分である

2-5. 子どもの発達・援助 食育への取り組み

56件の回答



- A 十分達成されている
- B 達成されている
- C 取り組まれているが、成果が十分でない
- D 取り組みが不十分である

【行事への取り組み】

- ・コロナが5類に移行し、様々な制限が緩和されたことで、行事等も十分に子供たちの成長を期待した働きかけができるようになった。
- ・行事については、今年度の取り組み方が子どもたちの姿に合っていて適切だったと感じる。
- ・今年度運動会を1学期に行った事で、遊びや他行事も一つ一つ、しっかり向き合うことができたと思う。運動会への取り組み方も無理をさせず行いながらも、子どもたちのやる気を引き出し楽しみながら行えたと思う。
- ・ねらいや子どもたちに育ててほしい部分を担任間で話し合いながら行うことができた。
- ・行事への取り組み方など、少しずつ職員の意識を変えていくことも必要だと感じた。

【除去食誤提供事故】

- ・園の体制の見直しを行い、保育の取り組みにも変化が出てきた。良い方向へ繋がってきていると思う。
- ・やり方を見直したり学んだりときちんと改善に向かって進むことができた。この気持ちを忘れず、日々適度な緊張感を持ちながら保育していきたい。
- ・一人一人の意識は高まったもののまだ努力が必要だ。安全に保育ができるよう、引き続き考えていく必要がある。
- ・アレルギー児への対応やアレルギーに対する知識をさらに深めたり、振り返りを行うなかで繰り返さないように意識したりしていくことを続けていきたい。子どもの発達や援助に関しては、研修会を通してさらに学びを深めながら対応できるスキルを身につけていきたい。

【事故・ヒヤリハット】

- ・事故・ヒヤリが起きた時に、クッション材を付けるなどすぐに対応出来て良かった。

- ・危機管理については自分自身の取り組みが十分になされておらず、反省点である。
- ・様々な年齢の担任を経験したり、個性豊かな先生たちと働いたりすることで、自分自身、子どもに合わせた援助をしていると思っているが、噛みつきや引っ掻きなどの事故は防ぎきれていない。未然に防ぐことができるよう、全体を見て対処していきたい。

【食育活動】

- ・今年度 2 歳児は野菜の栽培ができなかった。子どもにとって身近な畑があると野菜に自然に触れる機会が増えるのではないか。
- ・クッキングだけでなく、食育がもっと身近なものになるよう学んでいきたい。
- ・子どもたちが主体的に楽しめるような内容になってきていると思う。
- ・一年を通しての活動や年度をまたいだクッキングなど、食物へ親しみを持ちながら取り組むことで普段の生活にも繋がっていると感じた。
- ・家庭では食べられない食材も園では食べるという子どもも多いので、様々な食材に触れて興味が広がるような取り組みを続けたい。

【一人一人に寄り添う保育】

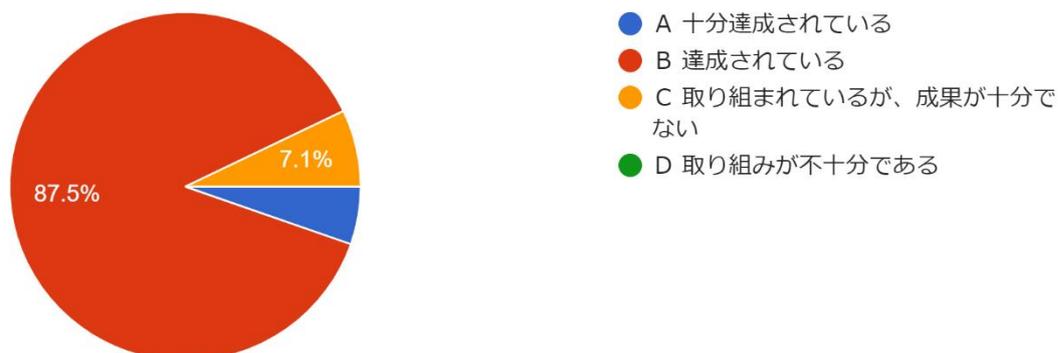
- ・小グループ保育を行うことで、子ども一人一人に合わせた関わりや過ごし方が実践できていると思う。
- ・子ども一人一人の家庭環境や生活経験の違いを踏まえた上で、子どもの気づきや行動を温かく見守り、環境を整えながら、それぞれの発達の特長や課題に応じた保育を心がけた。
- ・一人一人の特性に合わせて過ごすことができたか、これで本当に良かったのか、毎日苦悩の日々だった。子どもたちの安全を守りながら個々の対応をすることが大変な時期もあった。
- ・配慮が必要な子への関わり方や個々の家庭環境やその時の感情に合わせた配慮の仕方に戸惑うことがある。子どもに寄り添えるように常に職員間で確認、報告できるようにしたい。今年度は会議でそのような話し合いができず不安を感じる時があった。
- ・配慮が必要な子どもなどにばかり目が行きがちだが極力全体を見られるよう努力をしている。

【保育環境】

- ・子どもの発達や知育につながる玩具がワンパターンになりつつあるため、手作りの玩具や子どもたちと作るなどして、活動に取り入れながら増やしていきたいと思う。
- ・預かり保育では、限られた時間、場所で同じ友達と過ごす中で安心して過ごせる環境作りができた。
- ・不適切な保育について話し合う機会があり改めて保育の在り方について考えることができた。

3. 保護者に対する支援 保護者・地域への対応

56 件の回答



【保護者との関わり】

- ・信頼関係ができていれば対応や支援も円滑に進められるとの思いを持ち、保育に向き合うことを大事にする。
- ・保護者の悩みや相談を受けながら一緒に解決に向けて取り組むことができた。
- ・保護者の方になるべく話しかけるように心がけ、コミュニケーションを取ってきた。信頼関係を築けた頃から、さまざまな話をしてくれるようになった保護者の方も多く良かった。
- ・子どもの姿に不安を抱いている保護者には必要に応じてアドバイスを行ったり、気持ちに寄り添ったりするよう努めた。
- ・子どもたちが頑張っていたことや、良い所、微笑ましいことなどがあった時に保護者に伝えるように心がけた。保護者の笑顔を見ることができて良かった。
- ・保護者からの相談には時間をきちんととり、ゆっくり丁寧に対応した。その後の情報共有もきちんと行うことで、クラス内で同じ対応ができるよう心がけた。
- ・送迎時の保護者対応で対話をしているが、保護者の期待に応えるには自分の言葉選びや会話のテンポなどが未熟で正確に伝えることに難しさを感じている。先輩方の対応や言葉選びを見習い、丁寧な関わりをして行けるようにする。

【保護者支援】

- ・保護者支援が必要な家庭が増えてきているので、職員間でそれぞれの家庭への支援について協議したり共通理解したりする時間を設け、同じ方向を向いて対応していきたい。
- ・支援が必要なご家庭に対して、担任や主幹と連携し対応できた。
- ・家庭環境が多様で子どもの育ちに大きな影響をもたらしていることをきちんと理解したり受け止めたりしながら、専門機関との連携を深めて支援していける体制がとれるとよいと思う。また、担任だけに任せるのではなく管理職の職員と一緒に考え取り組んだりフォローしたりするなかで、それぞれの家庭に適した支援を行える園になっていきたい。
- ・保護者の気持ちを汲み取り共感もしながら、保育者として子どもの生活を守るということを大事にかかわってきたい。
- ・保育の申込みが出ていない家庭には声をかけ、期限が過ぎていても状況に応じての対応をするなど行ってきた。
- ・所持品を毎回準備出来ない家庭や心に余裕の無い保護者の方等、多様な家庭が有るが職員間で情報共有し対応している。
- ・直接なかなか会えない保護者に対して、子どもの園生活の様子などを伝える機会を設けたいと思う。

【情報発信】

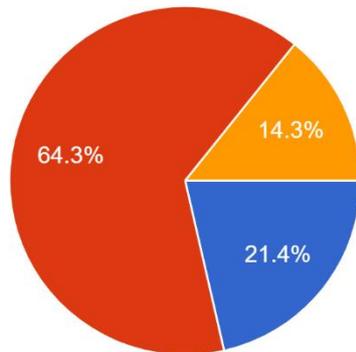
- ・おがーるシステムにより連絡がスムーズになった。保育の様子を配信することで園の活動への理解も深まるのではないかと。
- ・SNS をうまく使いながら、子どもたちの様子を随時発信することができた。

【地域交流】

- ・コロナも落ち着いたことで地域交流も行うことができ良い経験になった。
- ・地域の方々にお散歩中の挨拶を子どもたちと共に実践できた。

4-1. 保育を支える組織的基盤 研修への取り組み

56 件の回答



- A 十分達成されている
- B 達成されている
- C 取り組まれているが、成果が十分でない
- D 取り組みが不十分である

【研修】

- ・園内研修の取り組み方を変えていきたい。実践的な研修や意見を交わせる研修をもっと行うことで生き生きとした保育ができるのではないかと思います。
- ・園内研修の内容を、子どもの姿に合わせながら題材を設定し、さらに実りあるものになるようにしていきたい。
- ・お互いの保育観、外部の保育、様々な考えを学び合える時間がほしいと感じる。
- ・園内研修への取り組みについては、どの部署でも参加出来る、または後日に内容を確認できるようにしたいと思う。
- ・園内研修ではより具体的な内容で踏み込んだ研修ができた。
- ・園内研修では、その月の反省を行うことが多く、内容が他の会議と重複しているように感じたので、今後、研修の内容について見直ししていくとよいのではないかと感じた。
- ・外部講師による園内研修は、食物アレルギー対応の共通理解する機会となり良かった。
- ・今年度はアレルギーに関する研修をしっかりと行うことができた。今後も日々の保育を振り返りながらみんなでどんな研修が必要か意見を出し合い、学ぶ機会を多く持てるようにしていけると良いと思う。
- ・食物アレルギーヒアリング事例集など目を通してみたい。
- ・毎年一度行われる多方面の方をお呼びして行われる研修会が有意義であり楽しみにしている。
- ・オンラインだけでなく、研修会への参加が増え、日々の保育の見直しや新しい知識の習得に繋がったように感じる。
- ・外部研修はキャリアアップ研修が主となっているが、専門知識を深めるために様々な研修会に積極的に参加していきたい。
- ・オンライン研修があることで、どこでもパソコンなどがあれば研修を受けられる環境にあることが有り難かった。しかし、時間の確保が難しいと感じた部分もあった。
- ・外部研修での学びを園の保育の質に繋げていけるようにしたり、園内研修が充実していくように見直したりしていくことも重要だと感じる。職員一人一人が認められて自己肯定感を高めながら保育の質の向上につながるような取り組みができるとよいと思う。
- ・研修に参加するだけでなく、他の職員が受講した研修も資料に目を通して、専門知識を高めていきたい。また、日々の自己研鑽を怠らず、邁進していきたい。
- ・子育て支援員の研修に参加することで保育意識を高めることができた。また他園での研修では今までの保育を活かすことができた。他園の職員と保育について意見交換ができてよかった。
- ・盛岡地区教員研修会に2年間参加させていただき、他園の保育の様子を聞いて自分の保育を活かすことができた。

【施設管理】

- ・研修や施設の管理などはとても丁寧で的確な内容だと思っている。
- ・施設の管理を任せ切りにせず、自分からより良いものにできるように積極的に関わってみたい。
- ・パソコンの台数が増えたことで、仕事の効率化につながっている。

- ・個人情報載っている書類等を出しっぱなしにせず、保護者の目につかない所に置くなど皆で気をつけていければと思う。
- ・職員間で、ノンコンタクトタイムや定時での退勤などを意識する働き方が芽生えてきている。これからは3歳未満児の各クラスが日にちを決めてクラスごとに担任がノンコンタクトで話し合う時間を取る日を設けたい。
- ・ノンコンタクトタイムの取り組みで、事務仕事を日中の時間に取れることで、持ち帰っての仕事が無くなり、余裕を持って保育に取り組めるようになって良かった。
- ・超過勤務手当をつけやすくしてほしい。
- ・報告、連絡、相談はしっかり行っていた。

3, 令和6年度の目標 ※次年度への意見等を参考に立案

目標	内容
1.労働環境・意識の改革	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休憩時間、ノンコンタクトタイムの確保と定着 ・ 危機管理意識を高め、事故防止に努める ・ 自分の業務に責任を持ち、お互いが心地よく働ける環境にする
2.教育・保育の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育実践に生かせる園内研修の実施 ・ 園児への適切な関わり（適切な言葉かけ、呼称など） ・ 自園調理であることを生かした給食や食育の充実
3.選ばれる園になるための実践強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNS を活用した情報発信 ・ 子育て支援事業の充実（0・1歳児の親子サークルの新設、園開放・プレスクールの見直し）